

## 生産、物流現場カイゼン研究会、日本中小企業ネット@上海

### 不良品削減を主題にセミナー

### 職場風土改革、管理可視化を提案

生産、物流現場カイゼン研究会 (a-Sol) と日本中小企業ネット@上海が 3 月 11 日、「このセミナーを聞くと 3000 万円の不良品がゼロになります」と題するセミナーを新虹橋中心大廈で開催した。生産、物流現場カイゼン研究会カイゼニストの古田直道氏が講演。自身の取り組みを引き合いに、生産現場における不良品削減へ向けた対応策について説明した。

セミナー冒頭、生産、物流現場カイゼン研究会 (a-Sol) 理事長総経理の門脇圭氏が挨拶。「今後、中国経済がさらに回復すれば、メーカーの生産量が増え不良品対策が不可欠になる。今回のセミナーを通じ、皆さんの不良品削減に貢献したい」と述べた。

講演者の古田氏は、まず生産現場において「ロス＝金」という意識を醸成させることが大事だと説明。その上で不良品ゼロを目指すには、当事者意識、問題解決力、組織力、継続力のある“強い現場力”が必要だと説いた。そのための主なポイントとして、職場風土改革、管理の見える化、JIT (Just In Time) な工程、自工程完結、標準化と教育を挙げた。

職場風土改革では、第一に生産現場の整理整頓と挨拶の徹底を促した。特に整理整頓は各作業者の設備、品質、安全への意識向上を生む土壌を作ると指摘。また、掲示板を設置して各工程の管理状況などを“見える化”し、問題点を共有認識させる必要性を強調した。

このほか、JIT について触れ、その概念を「売れる物を売れる時に、効率的で高品質に作ること」と紹介。JIT の徹底には、生産現場における製造、運搬、加工、在庫、作業動作などのあらゆるムダを総合的に見直すことが大切だと語った。

また、生産現場において自工程で不具合の発生を防止し、後工程へ影響を与えない自工程完結の浸透を呼びかけた。さらに、作業を標準化し、時間をかけて教育していくことで初めて、品質の統一が図れると述べた。

なお、生産、物流現場カイゼン研究会は同内容のセミナーを 12 日にも上海市内で単独開催。約 60 名の企業が参加した。



講演者の古田直道氏



日本中小企業ネット@上海会員企業の約 30 名が参加